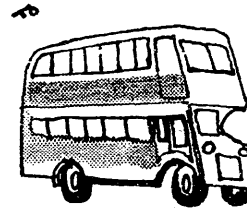


# 医薬品産業の国営化を 検討する労働党



(イギリス)

労働党では、国民保健サービスにしろる薬剤費の規模ならびに「その費用にしろる莫大な利潤率」に憂慮し、今年中にイギリス医薬品産業国営化の可能性について検討する研究グループ設置の意図を肯定した。

この研究グループ設置のニュースは英国医薬品産業協会 ABPI の発行紙によってスッ破ぬかれたものである。

労働党の言によると、「国営化により、競争のはげしい医薬品の開発研究にともなう経済的浪費が切除され、企業の効率化が高められる」という伝統的な議論は支持されているとする。

また、国民保健サービスが民間企業によって供給されていることにも関係がある。すなわち、国民保健サービスは医薬品産業唯一の常得意であることである。

1967年のセインスバリー委員会によって実

施された医薬品産業に関する最近の調査では、国営化反対の線が打ち出されているが、先週公表された労働党の政策文書では「公有化の路線」を開くことを強く匂わせている。

多くの医薬品産業は多国籍産業であるという事実はその事情を複雑化せしめているとはいえ、労働党の一部筋ではいまなおその推進に熱心である。前回の年次大会では国営化を要求する七本の動議があった。

医薬品産業は成長産業の一つである。1970年における生産額は約4億3,300万ポンドで、年間輸出額は1億6,800万ポンドであった。医薬品産業は僅か8万人の被用者しか有していないが、そのプラントの多くは失業率の高い開発地域にある。

ABPI では、昨日、「国民保健サービスがわれわれの唯一の御得意さんではない。労働党は国内にしか目をむけていない。われわ

れの実産額の半ばは輸出向けである。国民保健サービス向け医薬品の利潤は輸出向け利潤の半分にすぎない。

外国での国営による医薬品企業は新薬開発に暗い体験を経てきた。官僚主義的なアプローチは、新薬開発のための研究というリスクの高い投資事業を行うには適さない。」とのべている。

自由企業組織である ABPI の目的は、労働党のいう研究グループを不吉なものときめつけることである。将来の労働党政府が、労働党のいう「民間産業を非効率化」せしめている元凶たるアメリカ資本の接収を敢行しなければ、「イギリスの生産業者だけが巻き添えを食うことになろう」とのべている。

「労働党が産業の競争のはげしい開発研究を切除しようなどというのは驚きいる次第である。医薬品の新案特許を殆んどもたない国の一つは、完全に国営産業化されているソ連なのである」と。

*The Times*, 7, 12. '72

(田中寿 国立国会図書館)